

PCR検査

区が1,800施設 2万人余に実施!



区児童相談所にて

学童クラブおやつ8年ぶり復活、 公契約制度実現へ!

江戸川区は、11月から来年3月にかけて新型コロナウイルス感染症拡大防止へ、リスクの高い約1800の施設、2万人をこえる従事者にPCR検査を実施します。また、学童クラブの午後7時までの時間延長と8年ぶりとなるおやつ復活、区との契約で働く労働者のための「公契約」制度も実現の見通しです。いずれも、区民の皆さんとともに頑張ってきた日本共産党区議団の公約実現となります。

PCR検査拡充実現!!

今議会でも、医療・介護・福祉・保育・教育などの現場で働く全職員への検査を求めました。区は、11月1日から来年3月31日まで、公費でのPCR検査の実施を発表。高齢者、障害者のデイサービスや訪問介護サービス等を実施する事業所(1472ヶ所)、幼稚園・保育園・小中学校(364ヶ所)に勤務する職員2万1751人が対象です。検体容器を事前に送付、巡回して回収する方式です。このスクリーニング検査で陽性者が出た時は保健所が精密検査を行います。今後は、医療機関の職員への検査も求められます。

コロナ禍で 区独自の給付金を!

荒川・新宿・葛飾区は、定額給付金の基準日以降に生まれた赤ちゃんにも10万円の給付。足立区はひとり親家庭の子どもに2万円給付など、区独自に支援。江戸川区でも実施を!と、共産党も与党も求めました。区民の強い要望です。力を合わせて実現させましょう。

SDGsにかなう公契約制度を!

今議会の答弁で、区との契約で働く建設産業をはじめとする労働者の賃金の下限を条例で定める公契約制度の実現が明らかになりました。区長は、国連が定めたSDGsの目標のひとつ「持続可能な公共調達」の慣行の促進にかなう制度として公契約制度をあげ、実施を表明。

区議団は、建設労働組合等の要求をもとに、一貫して制度の実現を求めてきました。区との契約のもとで働くすべての労働者のくらしを守る制度にすることが必要です。

学童クラブのおやつ復活! 時間延長も実現!

8年前に廃止された学童クラブのおやつ。それまで4000人近い学童クラブの子どもたちは、指導員が用意したおやつを食べていました。当時就学援助世帯はおやつ代の助成があり、その経費(約1000万円)の削減が目的でした。その後、6時までお水しか飲めなかった子どもたち。数年前の夏には帰り道に脱水症状で倒れた子どももいました。4年前、保護者による持ち込みが可能になったものの、給1つにも日付・学年・名前を記入し1日ごとに分け、一週間分を時間内に届けるなど大変な負担でした。

区議団は子どもの心と体に必要不可欠なおやつ復活を求めて、繰り返し議会質問や条例提案を行いました。同時に、保育時間延長と正規指導員の増員を求め、指導員は今年9月に20年ぶりに採用。今議会では、新年度、時間延長にあわせておやつ提供復活の方針が示されました!

